

横浜山手病院

桑原千代子

私がこの病院の研究を始めた動機は、また General Hospital と呼称されていた時期の、第八代院長 D. N. G. Munro M.D. について（横浜市図書館発行「郷土よこはま」七六号所載の桑原論文「横浜時代の N. G. マンロー博士」参照—日本考古学の先駆者、列島最初の旧石器発掘者として大著“Prehistoric Japan”を出版、亦アイヌの惨状を見兼ね結核撲滅を始め無料診療と彼等の福祉に献身し、第二次大戦中食窮裡にアイヌロタンで没したが、遺稿集“AINU Creed and Cult”は人類学研究の世界的名著と評価）既に長期間研究を続けていたが、病院の所在も医学業績も皆目判らず、故石原明先生にお尋ねしたが、病院所在もマンローについても全然資料がなく判らないが、近く（S. 41・5・14）第六七回医史学会総会が横浜で開催「明治初期横浜医学史」の会長講演をするからと、有難くも傍聴の御許可を得大感謝で参会した事

に始まる。会長発表の「明治初期横浜医学史稿」中、唯一の合致点左の一項を後年照合発見する。

一八六九（明治二）年

英国公使の要望により外人患者用病院敷地を山手居留地 B、八二番に貸与

のち七年経過、故荒畑寒村先生の助力を頂き病院所在をつきとめ、現実に訪ね得た時の感動は大変なもので、それが現在の山手病院（“The Bluff Hospital” 中区三丁目82）であった。

玄関正面ホール壁面銅板の名誉牌には四回の呼称の変化と歴代院長名が刻まれている。

The public Hospital (横浜公立病院) 1863—1866

The Bluff (Dutch) Hospital (横浜山手オランダ病院)

1866—1867

The Yokohama General Hospital (横浜総合病院)

1867—1950

The Bluff Hospital (横浜山手病院) 1850—1982

Roll of Honour

- 1863 Dr. G.R. Jenkins M.D
 1866 Dr. De Meyer M.D
 1867 A.J. Wilkin Esquire
 1869 Consul H. Grauert
 1870 Dr. J.J.R. Duliston
 1876 Dr. S. Eldridge M.D
 1885 Dr. E. Wheeler M.D
 1893 Dr. N.G. Munro M.D
 1923 Matron C. Dalton
 1923 Nursing Sister N. Little
 1923 F.W. Franzar Esquire
 1935 E. Hamilton-Holmes Esquire
 1935 Franciscan Sister of Mary
 1936 P. Nipkow Esquire
 1937 Dr. J.L. Mcsparran M.D
 1949 T.P. Davis Esquire
 1949 Dr. Y. Ikeda MD
 1949 Matron S. Kawamoto
 1951 Dr. M.C. Morton M.D

- 1953 Mrs. H.G. Knapp
 1960 C.G. Hampden-King Esquire
 1962 Dr. L. Kison M.D
 1963 Mrs. B.K. Denton
 1966 G.C. Barclay Esquire
 1967 C.W. Newton Esquire
 1968 D.A. White Esquire
 1968 H.I.H. Princess Chichibu

以上であるが現在の病院が新築落成の際に英総領事の願出によりテープカット遊ばされた日英協会総裁秩父宮妃殿下が、名誉院長として御尊名をとどめて在されるのである。

関東大震災迄の病院沿革史記録一切は焼失したが、英領事館の古い記録や外人墓地記録等から、ハロルド・S・ウィリアム氏、H・グロッド教授らの照合調査により大略復元したものを、D・マルコムエドワード領事が発表し、同病院丸山事務長の御厚意により参照させて頂き以下は要項をまとめたものである。

横浜市での最初の病院として知られているのは1863年

リークサイド88区画での民間のクリニック組織が始めとされ、外人居留地の山手の何処かで（不明）横浜公立病院と呼ばれ、初代院長は Jenkins (米人) で三年間無報酬で働いた。次が現在地の近くで小病院を開業していた蘭人 De Meyer が引継ぎ横浜山手オランダ病院と呼称が変り私立病院として位置づけられた。当時英仏の軍事医療施設がこの地域にあった故である。そして石原会長発表の二項目と合致する現在地山手居留地B、八二を貸与され（旧オランダ海軍の石炭置場の跡地）H・グロエア英領事を長とする外人コミュニティは、居留地外人と企業の寄附によって、古い建物を改築し進歩した設備を整え、市の発展に合わせ General Hospital（市民は一般病院）と呼称され総合病院として運営された。

六代院長 Eldridge (米) は函館医学学校長・同病院長を経て横浜山下町で開業後就任、七代院長 Wheeler は神奈川県衛生部主席顧問も兼任、八代 Munro 院長は優秀外科医だが考古学に熱中し休職多く、前院長がその間代行十余年実質勤務年数最長で、大震災時海岸通りで焼死。Munro は年末退職軽井沢病院長を経てコタンへ向う。一切倒壊灰

燼に帰した同病院は、隔離病棟のあった中村町に仮病院を再建、1937年に山手町81と82に恒久的な建物が完成し隔離病棟も共に移り、その間活躍したハミルトンホームズ英総領事の功績や、聖母マリア教会のフランシスコ修道女達、コミュニティ委員や夫人達の活躍は偉大だ。第二次大戦中は日本海軍が接收、1950年より百床以下のベッド数の為表題の呼称となる。1968年の再建後は邦人医博も可成活躍し、創立以来の功労者33名の名簿も発表 Jenkins, Eldridge Wheeler, Munro の名も見える。同病院がその由緒ある長い歴史を閉づる旨昨夏新聞報道で知り驚いて丸山事務長宛二度手紙を出したが受取人不在で戻された。